

西の湖および琵琶湖に垂下したセタシジミの肥満度と生残

井戸本純一・草野充・磯田能年（（公財）滋賀県水産振興協会）

1. 目的

産卵期のセタシジミ親貝の肥満度低下に対する対策として、繁殖助長のために琵琶湖へ放流する親貝をいったん栄養が豊富な西の湖に垂下し、その肥育効果を検証した。

2. 方法

2017年2月4日に彦根、沖島、高島の各漁場で採捕した合計約600kgの親貝を開孔形状の異なる浅いプラスチック容器に4kgずつ収容して西の湖に垂下し、4月下旬に取上げた。一部は対照として放流先の琵琶湖（松原試験区）に、また比較のためその他の琵琶湖周辺水域（水産試験場港湾、赤野井湾、瀬田川）にも垂下した。西の湖に垂下した親貝には、放流後の追跡を可能にするため、両殻に浅い削痕をつける標識を3月中に施した。

3. 結果

西の湖に垂下した親貝の生残は、容器の形状間ではほとんど差がなかったが、産地によって倍以上の差があり、過年度とくらべるといずれも著しく悪かった（図1）。採捕時の肥満度が比較的高い漁場の親貝ほどよく生き残り、琵琶湖に垂下した無標識貝（対照）も同様の傾向を示したことから、本年度の生残の大幅な低下は各漁場で採捕した親貝に高い割合で肥満度が異常に低い個体が含まれていたことがおもな原因と考えられた（図2）。

垂下中の肥満度の変化を産地ごとにみると、琵琶湖では-0.3~+0.2ポイントと平均では差がなかったのに対して西の湖では+0.3~+0.7ポイントと上昇した（図3）。また、その他の水域（彦根産親貝のみ）では、赤野井湾で+2.4ポイント、瀬田川で+0.6ポイントと琵琶湖の南部で肥満度が上昇した（図4）。

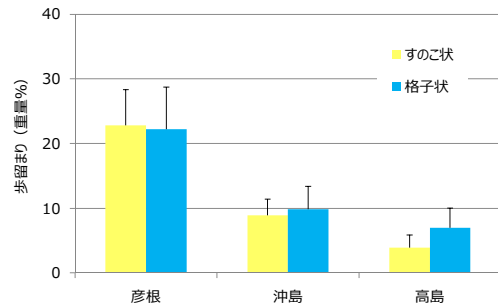


図1 西の湖垂下親貝の産地別容器別生残状況

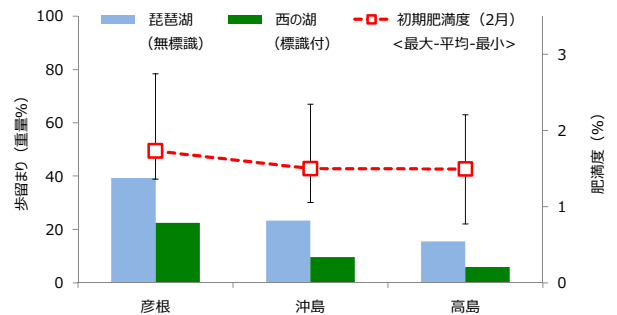


図2 対照（琵琶湖に垂下）との生残の比較

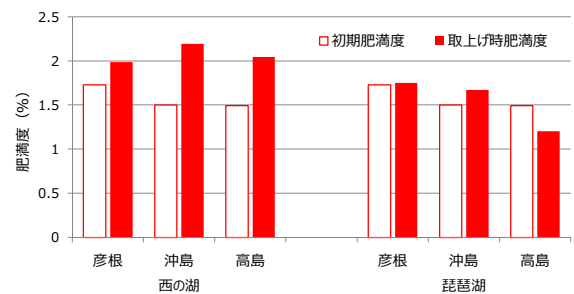


図3 西の湖と琵琶湖における垂下親貝の肥満状況

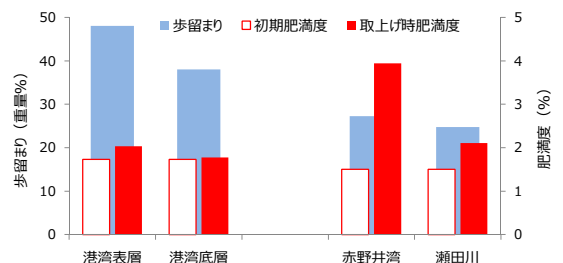


図4 その他の水域における生残と肥満状況

肥満度(%)=会の中身（軟体部）の乾燥重量/貝全体の重量（貝殻及び内部の水を含む）×100

本研究は平成29年度二枚貝緊急増殖対策事業（水産庁）を実施する（公財）滋賀県水産振興協会と共同で行った。